

# NetBackup™ リリースノート

リリース 10.4

マニュアルバージョン 2

**VERITAS™**

# NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2024-05-14

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2024 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Veritas Alta、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19 「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202 「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC  
2625 Augustine Drive  
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

## マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

## マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

[NB.docs@veritas.com](mailto:NB.docs@veritas.com)

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

## Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

**Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools)** は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

[https://sort.veritas.com/data/support/SORT\\_Data\\_Sheet.pdf](https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf)

# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>NetBackup 10.4 について</b> .....	8
	NetBackup 10.4 のリリースについて .....	8
	NetBackup の最新情報について .....	9
	NetBackup サードパーティの法的通知について .....	9
<b>第 2 章</b>	<b>新機能、拡張機能および変更</b> .....	10
	NetBackup の新しい拡張と変更について .....	10
	NetBackup 10.4 の新機能、変更点、拡張機能 .....	10
	Veritas 用語の変更点 .....	12
	NetBackup 10.4 の RESTful API .....	13
	NetBackup Web UI でのポリシーによるクライアント側の重複排除制 御 .....	17
	NetBackup Web UI でのダッシュボードの変更 .....	18
	マルウェアスキャンの改善点 .....	18
	多要素認証の機能強化 .....	18
	異常検出の拡張機能 .....	19
	マルチパーソン認証の拡張機能 .....	19
	OCSF 形式の監査イベントに対する NetBackup のサポート .....	19
	NetBackup Replication Director のサポート終了 (EOSL) と後継の NetBackup Snapshot Manager (NBSM) .....	20
	NetBackup 10.4 のサポートの追加および変更点 .....	21
	Red Hat Enterprise Linux 7 のサポート廃止 .....	21
	Red Hat Enterprise Linux 8 マシンの CIS レベル 2 v2 ベンチマー クのサポート .....	21
	将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド .....	21
	NetBackup 10.4 以降のインストールとアップグレードに関する Windows コンパイラとセキュリティの要件 .....	22
	廃止予定のクラウドリカバリサーバーを伴うイメージ共有を設定するス クリプト .....	22
	AWS クラウド環境で仮想マシンを作成するために使用される AMI .....	22
	アップグレードされたコンテナ化サービス .....	23
	クラウド作業負荷のための Oracle Cloud Infrastructure のサポート .....	23

	VMware vSAN Express Storage Architecture (ESA) のサポート	23
	NetBackup Web UI での VMware ポリシーを使用した vApp の参照機能	24
	NetBackup Web UI での NetBackup for VMware の新機能	24
	XFS フォーマット済みボリュームと LVM2 シンプルボリュームのサポート	24
	NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能および変更点	24
	NetBackup for Oracle の新機能および変更点	25
	マルウェアスキャンのための Kubernetes 作業負荷の種類のサポート	26
	プライマリサーバーとメディアサーバーに対するパッチ適用メカニズム	26
	Dynamic NAS (D-NAS) の新機能	26
<b>第 3 章</b>	<b>操作上の注意事項</b>	<b>28</b>
	NetBackup 10.4 の操作上の注意事項について	28
	NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	29
	Windows で NetBackup 10.4 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す	29
	ネイティブインストールの要件	29
	NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある	30
	HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて	30
	NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	31
	データベースへのアップデートコマンド	31
	一部の作業負荷環境におけるアップグレード前のジョブデータベースのサイズの削減	31
	Replication Director を使用するポリシーがエラーコード 4224 で失敗する	31
	NetBackup マルウェアユーティリティから応答を取得できない	32
	NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	33
	[カタログ (Catalog)] 領域で列を追加または削除する際に NetBackup Web UI で遅延が発生する	33
	NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する	33
	Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する	33
	NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	34
	PIT リストア後 [ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)] というエラーが表示される	34

Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動的に起動しないことがある .....	34
NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項 .....	35
NetBackup バージョン 10.4 の AIR (自動イメージレプリケーション) では NetBackup 10.2 以降が必要 .....	35
Azure で、古いポリシーが新しいバックアップホストで更新されるとバックアップが失敗する .....	35
レプリケートされたバックアップを古い NetBackup バージョンにリストアできない .....	35
Ceph 上の既存のクラウドオブジェクトストアアカウントの認証方法の変更が失敗することがある .....	36
Red Hat Ceph では Assume ロールのクレデンシャル形式がサポートされない .....	36
NetBackup Snapshot Manager (以前の NetBackup CloudPoint) .....	37
AWS マーケットプレース AMI から作成されたインスタンスでインデックス付けがサポートされない .....	37
ストレージレイの証明書の検証 .....	37
NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項 .....	37
NetBackup for Microsoft SQL Server の操作上の注意事項 .....	37
NetBackup NAS の操作上の注意事項 .....	38
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある .....	38
RD ストレージユニットがレプリケーションターゲットとして一覧表示されない .....	39
NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項 .....	39
NetBackup OpenStack 10.4 からの NetBackup for OpenStack Appliance の再初期化機能の削除 .....	39
バックアップからのボリュームの除外が NetBackup for OpenStack 10.4 ではサポートされない .....	39
NetBackup for OpenStack 10.4 は古いバージョンのポリシーのみをインポートする .....	39
haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする .....	40
増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない .....	40
リカバリポイントがある保護を削除すると、エラーメッセージとともに成功メッセージが表示される .....	40
リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される .....	40
SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない .....	40
OpenStack プロジェクトが削除されると NetBackup for OpenStack 10.4 でポリシーのインポートが機能しない .....	41

	NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項 .....	41
	データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート .....	41
	特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする .....	42
付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について .....	43
	Veritas Services and Operations Readiness Tools について .....	43
付録 B	NetBackup のインストール要件 .....	45
	NetBackup のインストール要件について .....	45
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新 .....	46
	NetBackup 10.4 のバイナリサイズ .....	47
付録 C	NetBackup の互換性の要件 .....	50
	NetBackup のバージョン間の互換性について .....	50
	NetBackup の互換性リストと情報について .....	51
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて .....	51
付録 D	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニュアル .....	53
	NetBackup の関連マニュアルについて .....	53

# NetBackup 10.4 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 10.4 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

## NetBackup 10.4 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.10 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

### EEB およびリリース内容について

NetBackup 10.4 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正の一部は、お客様固有の問題に関連します。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 10.4 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド』にあります。

p.43 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

### NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の



最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 3.1 は NetBackup 8.1 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

## NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/15143.html](https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html)

## NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の揭示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

# 新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 10.4 の新機能、変更点、拡張機能](#)

## NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup](#) の互換性リストに文書化されます。

---

**メモ:** 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[すべてのバージョンの NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

---

p.8 の「[NetBackup 10.4 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.51 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

## NetBackup 10.4 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 10.4 の新機能、変更点、および拡張機能は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

## 新機能

- 「Veritas 用語の変更点」
- 「NetBackup 10.4 の RESTful API」
- 「NetBackup Web UI でのポリシーによるクライアント側の重複排除制御」
- 「NetBackup Web UI でのダッシュボードの変更」
- 「マルウェアスキャンの改善点」
- 「多要素認証の機能強化」
- 「異常検出の拡張機能」
- 「マルチパーソン認証の拡張機能」
- 「OCSF 形式の監査イベントに対する NetBackup のサポート」

## 安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

---

- **メモ:** NetBackup 10.4 をインストールまたは 8.1 より前のリリースからアップグレードする前に、『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』を必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)

---

## サポートの変更点と拡張機能

- 「NetBackup Replication Director のサポート終了 (EOSL) と後継の NetBackup Snapshot Manager (NBSM)」
- 「NetBackup 10.4 のサポートの追加および変更点」
- 「Red Hat Enterprise Linux 7 のサポート廃止」
- 「Red Hat Enterprise Linux 8 マシンの CIS レベル 2 v2 ベンチマークのサポート」
- 「将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド」

## インストール、アップグレード、および構成の変更点と拡張機能

- 「NetBackup 10.4 以降のインストールとアップグレードに関する Windows コンパイラとセキュリティの要件」

## クラウド関連の変更点と拡張機能

- 「廃止予定のクラウドリカバリサーバーを伴うイメージ共有を設定するスクリプト」

- 「AWS クラウド環境で仮想マシンを作成するために使用される AMI」
- 「アップグレードされたコンテナ化サービス」
- 「クラウド作業負荷のための Oracle Cloud Infrastructure のサポート」

### 仮想化の変更点と拡張機能

- 「VMware vSAN Express Storage Architecture (ESA) のサポート」
- 「NetBackup Web UI での VMware ポリシーを使用した vApp の参照機能」
- 「NetBackup Web UI での NetBackup for VMware の新機能」
- 「XFS フォーマット済みボリュームと LVM2 シンプルボリュームのサポート」

### 作業負荷とデータベースエージェントの変更点と拡張機能

- 「NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能および変更点」
- 「NetBackup for Oracle の新機能および変更点」
- 「マルウェアスキャンのための Kubernetes 作業負荷の種類のサポート」
- 「プライマリサーバーとメディアサーバーに対するパッチ適用メカニズム」

### NAS データ保護の変更点と拡張機能

- 「Dynamic NAS (D-NAS) の新機能」

## Veritas 用語の変更点

Veritas では最新の用語を使用するため、特定の古い用語を最新の用語を置き換え始めています。

---

**メモ:** Veritas では用語の更新を続けているため、非推奨の用語と新しい用語が同じ意味で使用される場合があります。

---

非推奨の用語	新しい用語
マスター	プライマリ
スレーブ	セカンダリサーバーまたはメディアサーバー
ホワイトリスト	許可リスト
ブラックリスト	ブロックリスト
ホワイトハット	倫理的
ブラックハット	非倫理的

## NetBackup 10.4 の RESTful API

NetBackup 10.4 は、更新された RESTful アプリケーションプログラミングインターフェース (API) と新しい RESTful API の両方を備えています。これらの API は、REST (Representational State Transfer) アーキテクチャで構築されています。これらは、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。

### API のマニュアル

NetBackup API のマニュアルは、SORT とプライマリサーバーにあります。「はじめに」のセクションで、該当するバージョンのトピックと新機能のトピックを参照してください。

- SORT の場合:

NetBackup API のマニュアルは、SORT で入手できます。

[[HOME](#)]、[[ナレッジベース \(KNOWLEDGE BASE\)](#)]、[[文書 \(Documents\)](#)]、[[製品バージョン \(Product Version\)](#)] 10.4

[[API リファレンス \(API Reference\)](#)] の下を参照します。『はじめに』のマニュアルには、NetBackup API の使用に関する背景情報が記載されています。API YAML ファイルも参照できますが、実用的ではありません。SORT 上のマニュアルからは API をテストできません。

- プライマリサーバーの場合:

API は、プライマリサーバー上の YAML ファイルに格納されています。

`https://<primary_server>/api-docs/index.html`

API は Swagger 形式で記述されています。この形式では、コードを確認し、API の実際の呼び出しを実行して機能をテストできます。Swagger API を使用するには、プライマリサーバーと API にアクセスするための適切なセキュリティ権限が必要です。

---

**注意:** Veritas は、開発環境でのみ API をテストすることをお勧めします。Swagger ファイルから実際の API の呼び出しを実行できるため、本番環境では API をテストしないでください。

---

### 新しい API

NetBackup 10.4 には、次の機能強化された API が新たに導入されました。

- ロボット:

- ロボットを削除します。
- ロボットを更新します。
- ロボット名に基づいてロボットの詳細を取得します。
- 構成済みのロボットについて、一意のデバイスホストのリストを取得します。

- ロボットインベントリ:
  - ロボットの内容を取得します。
  - バーコード規則のリストを取得します。
  - **Media Manager** サーバーに新しいバーコード規則を作成します。
  - 指定したバーコード規則を更新します。
  - 指定したバーコード規則を削除します。
  - メディアサーバーのメディア ID 生成規則のリストを取得します。
  - メディアサーバーのメディア ID 生成規則のリストを設定します。
  - メディアサーバーのメディア ID 接頭辞のリストを取得します。
  - メディアサーバーのメディア ID 接頭辞のリストを設定します。
  - ロボットボリュームの構成を管理します。
  - 指定したロボット形式について、メディア形式のマッピングを取得します。
- テープメディアボリューム:
  - テープメディアボリュームのリストを取得します。
  - テープメディアボリュームを作成します。
  - テープメディアボリュームの詳細を取得します。
  - ボリュームでクイック消去または完全消去を実行します。
  - ボリュームに対してラベル付け操作を実行します。
  - 外部のメディア形式のリストを取得します。
  - 1 つ以上のテープボリュームのバーコードを再スキャンして更新します。
  - ロボット間でボリュームを移動します。
  - 1 つ以上のテープボリュームを更新します。
  - 1 つ以上のテープボリュームを削除します。
  - ロボットから 1 つ以上のテープメディアボリュームを取り出します。
- テープメディアボリュームグループ:
  - テープボリュームグループのリストを取得します。
  - テープボリュームグループの詳細を取得します。
  - テープボリュームグループを更新します。
  - テープボリュームグループを削除します。
- ボリュームプール:

- 新しいテープボリュームプールを作成します。
- ID に基づいてボリュームプールの詳細を取得します。
- ボリュームプールを更新します。
- 1 つ以上のボリュームプールを削除します。
- テープメディアの所有者:
  - メディア所有者名のリストを取得します。
- メディアの設定:
  - 関連付けられた EMM サーバー設定を取得します。
  - 関連付けられた EMM サーバー設定を更新します。
- ストレージデバイス:
  - ストレージユニットの構成に使用されるテープロボットとスタンドアロンドライブを取得します。
- マルウェア:
  - 指定した ID の失敗またはキャンセルされたスキャン結果を削除します。
  - マルウェアスキャンの構成を検証します。
- 異常:
  - ポリシーとクライアントのフィードバックパラメータを更新します。
- ファイルハッシュの検索:
  - ファイルハッシュに基づいてファイルを検索します。
- 多要素認証:
  - 既存の多要素認証インフラストラクチャの適応性が拡張されました。

## バージョン化された API

これらは、最新の変更のために NetBackup 10.4 でバージョン化された API です。適切なバージョンを指定することで、これらの API の以前のバージョンも引き続きサポートされます。詳しくは、SORT の API リファレンスのバージョン管理に関するセクションを参照してください。

- **Get tape-volume-pools API:**  
 GET /storage/tape-volume-pools は、「policyType」でのフィルタ処理をサポートしなくなりました。
- **プライマリサーバー API との信頼の確立:**  
 「POST /config/servers/trusted-master-servers」

クレデンシャルベースの信頼のためのリクエストペイロードには、バージョン 11.0 以降の追加の「remotePrimaryAuthMode」フィールドが 1 つ必要です。

API v10.0 の例:

```
"trustedMasterServerName": "String",  
"authenticationType": "CREDENTIAL",  
"userName": "String",  
"password": "String",  
"fingerprint": "String"
```

API v11.0 の例:

```
"trustedMasterServerName": "String",  
"authenticationType": "CREDENTIAL",  
"userName": "String",  
"password": "String",  
"fingerprint": "String",  
"remotePrimaryAuthMode": "String"
```

- スキャンホスト API の追加:  
「POST /malware/scan-hosts」の新しい必須パラメータ。「mediaServerName」がペイロードに追加されました。このペイロードは、追加前のスキャンホストの検証に使用されます。

API v10.0 の例:

```
{  
  "data": {  
    "type": "createScanHost",  
    "attributes": {  
      "hostName": "scanhost.example.com",  
      "maxNoOfParallelScans": 0,  
      "state": "ACTIVE",  
      "scanHostCredentialName": "sample_creds"  
    },  
  },  
  "relationships": {  
    "malwareTool": {  
      "data": {  
        "type": "malwareTool",  
        "id": "1"  
      }  
    },  
  },  
  "scanHostPool": {  
    "data": {  
      "type": "scanHostPool",
```



```
        "id": "2"
      }
    }
  }
}
```

API v11.0 の例:

```
{
  "data": {
    "type": "createScanHost",
    "attributes": {
      "hostName": "scanhost.example.com",
      "maxNoOfParallelScans": 0,
      "state": "ACTIVE",
      "scanHostCredentialName": "sample_creds",
      "mediaServerName": "mediaserver.example.com"
    },
    "relationships": {
      "malwareTool": {
        "data": {
          "type": "malwareTool",
          "id": "1"
        }
      },
      "scanHostPool": {
        "data": {
          "type": "scanHostPool",
          "id": "2"
        }
      }
    }
  }
}
```

## NetBackup Web UI でのポリシーによるクライアント側の重複排除制御

ポリシーに対するクライアント側の重複排除オプションは NetBackup Web UI で更新します。ユーザーは次のオプションから選択できるようになりました: [ホストプロパティで構成された個々のクライアント設定を使用 (Use individual client settings configured in host properties)]、[すべてのクライアントで無効 (Disable for all clients)]、または[すべてのクライアントで有効 (Enable for all clients)]。

## NetBackup Web UI でのダッシュボードの変更

NetBackup Web UI では、NetBackup Web UI のダッシュボードの外観と機能が変更されています。

- ダッシュボードには、NetBackup 環境の詳細がドーナツグラフに表示され、環境内のジョブ、証明書、トークンの状態を視覚的に評価できます。
- ジョブ、証明書、トークンの特定の情報がクリックできるようになりました。リンクをクリックすると、その基準を満たすアイテムのみを含むフィルタ処理されたビューが表示されます。たとえば、リンクをクリックして、選択した時間枠のアクティブなジョブを表示したり、期限切れの証明書を表示したりできます。ダッシュボードでは、証明書とトークンウィジェットにリンクが含まれるようになり、これらのリンクから各ページに移動して、移動先のページで既存のフィルタ機能を使用できます。
- ジョブ情報については、[ダッシュボード (Dashboard)] のリンクをクリックすると NetBackup によってジョブリストが開き、[ジョブ (Jobs)] タブにそれらのジョブの一時フィルタが作成されます。詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』を参照してください。
- ウィジェットで選択した時間枠はセッション間で維持されます。たとえば、ジョブウィジェットで 48 時間を選択した場合、次回 NetBackup を開いたときにその時間枠が選択されます。

## マルウェアスキャンの改善点

- スキャンホスト構成の Ansible スクリプトは、gitHub で利用可能です。  
<https://github.com/VeritasOS/netbackup-scanhost-config>
- 新機能: 構成の検証  
この機能は、スキャンホストを追加または更新した後に、構成の問題を確認するためのサポートを提供します。
- スキャンホストを検証するため、NetBackup バージョン 10.2 以前からバージョン 10.4 にアップグレードした後は、スキャンホストエントリを再度保存する必要があります。
- NetBackup Malware Scanner 2.4 の最新バージョンはダウンロードセンターで入手できます。最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。

## 多要素認証の機能強化

多要素認証が構成されている場合は、次の操作を実行する前に、スマートデバイスの認証アプリケーションに表示されるワンタイムパスワードを入力して自分自身の再認証が必要になる場合があります。

- プライマリサーバーのグローバルセキュリティ設定の管理
- API キーの追加

これにより、NetBackup ドメインのセキュリティが強化されます。

これらの操作について詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』の対応するトピックを参照してください。

## 異常検出の拡張機能

異常検出はデフォルトで有効になっています。

- NetBackup 10.4 以降の新規インストールの場合、Standard、MS-Windows、NAS-Data-Protection、およびユニバーサル共有のポリシー形式については、異常検出がデフォルトで有効になっています。

NetBackup リスクエンジン

- NetBackup リスクエンジンは、特定のシステム異常を予防的に検出し、対応するアラートを送信します。環境でセキュリティ上の脅威に直面する前に修正措置を取るのに役立ちます。

指定した重要な操作についてリスクエンジンが異常を検出するために使用する次のオプションを構成できます。

- 疑わしいイメージ有効期限の検出
  - 重要な操作の保護
  - 発生する可能性のあるセッション乗っ取りの検出
- 詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』を参照してください。

## マルチパーソン認証の拡張機能

NetBackup 10.4 以降、マルチパーソン認証は、コマンドライン (CLI) オプション、NetBackup 管理コンソール (および NetBackup Web UI)、および REST API を使用して実行する操作でサポートされます。セキュリティプロパティの変更、イメージの保留の削除、WORM 保持ロックの削除、WORM 構成の変更などの新しい操作に対してマルチパーソン認証を有効にできるようになりました。

詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』を参照してください。

## OCSF 形式の監査イベントに対する NetBackup のサポート

OCSF (Open CyberSecurity Schema Framework) 形式の監査イベントを、SIAM プラットフォームにエクスポートできるようになりました。

詳しくは、次の記事を参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100063252](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100063252)

## NetBackup Replication Director のサポート終了 (EOSL) と後継の NetBackup Snapshot Manager (NBSM)

Veritas は、今後のリリースで NetBackup Replication Director のサポート終了 (EOSL) を予定しています。Replication Director は、セカンダリコントローラ上のレプリケートされたプライマリストレージボリュームから NAS と SAN ストレージのスナップショットを作成およびバックアップする機能を備えていました。これには、レプリカスナップショットからのインデックスとバックアップが含まれていました。この機能は、Standard、VMware、Oracle、NDMP ポリシーなどのポリシー形式で利用可能でした。

Replication Director は、NetBackup Snapshot Manager (NBSM) に代わりました。NBSM は NetBackup に不可欠な機能であり、Storage RestAPI エンドポイントと通信する「プラグイン」サービスを介してアレイとクラウドストレージティアに API インターフェースを統合することで、スナップショットレプリカとスナップショットレプリカ (レプリケートされたスナップショット) のオーケストレーションを実現します。

NBSM は Replication Director の OST 統合とは異なります。これにより NetBackup は、ストレージスナップショットとスナップショットレプリカの検出、作成、保持のためのコマンドの共通セットを使用して NBSM に要求を行うことができます。これらのインターフェースを抽象化することで、NetBackup は NetBackup ソフトウェアを変更せずに、新規または更新された NBSM プラグインが導入されたときに、作業負荷全体で新しいストレージインターフェースと更新されたストレージインターフェースを活用できます。NBSM は、ストレージおよびストレージレプリカの保護をサポートする広範なアレイコントローラアーキテクチャとクラウドストレージプラットフォームをサポートします。

ストレージのレプリケーションポリシーを定義した Replication Director とは異なり、NBSM はストレージコントローラ上の既存のレプリケーションポリシーを「検出」し、コントローラ間でボリュームをマッピングします。この受動的な方法では、既存のストレージレプリケーション戦略を変更せずに、既存のストレージレプリケーションポリシーを利用してバックアップ操作を行うことができます。

Replication Director のユーザーは、Replication Director の引数で指定されたストレージライフサイクルポリシー (SLP) を使用するポリシーを、NBSM のスナップショットとレプリカの引数を使用した新しい SLP に移行する必要があります。

NBSM について詳しくは、『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup の古いバージョンでの Replication Director のサポートは、公開されている [Veritas 製品ライフサイクル終了ポリシーのガイドライン](#) に従います。

## NetBackup 10.4 のサポートの追加および変更点

---

**メモ:** この情報は変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、「[NetBackup Compatibility List for all Versions](#)」を参照してください。

---

NetBackup 10.4 以降では、次の製品およびサービスがサポートされるようになりました。

- データベースエージェント
  - Cassandra 4.1.3 for Red Hat Enterprise Linux 8.x
  - PostgreSQL 14.x for SUSE Enterprise Linux 15 SP5 (x86\_64)
  - PostgreSQL 15.x for SUSE Enterprise Linux 12 SP5
  - PostgreSQL 15.x for SUSE Enterprise Linux 15 SP5 (x86\_64)
  - PostgreSQL 16.x - SUSE Enterprise Linux 15 SP5 (x86\_64)

## Red Hat Enterprise Linux 7 のサポート廃止

Red Hat Enterprise Linux 7 プラットフォームのサポートは廃止になりました。次回のメジャーリリースでは、Red Hat Enterprise Linux 7 のサポートは利用できなくなります。詳しくは、[全バージョンの NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

## Red Hat Enterprise Linux 8 マシンの CIS レベル 2 v2 ベンチマークのサポート

NetBackup Snapshot Manager 環境は、Red Hat Enterprise Linux 8 マシンの CIS レベル 2 v2 ベンチマークでサポートされるようになりました。

## 将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- bp.kill\_all
- bpdwn
- bpclusterkill

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』で発表されます。

## NetBackup 10.4 以降のインストールとアップグレードに関する Windows コンパイラとセキュリティの要件

NetBackup 10.4 以降の Windows では、Visual Studio 2022 コンパイラと Windows 11 SDK (Software Development Kit) を使用します。インストールとアップグレードプロセスでは、Microsoft 再頒布可能ユーティリティを使用して、Visual Studio 2022 C++ ランタイムライブラリがまだインストールされていない Windows ホストにインストールします。再頒布可能ユーティリティは、再起動を必須とするように Windows ホストを変更する場合があります。Veritas では、NetBackup のインストールやアップグレードとは関係なく、再起動を安全に実行できるメンテナンス期間内に、Windows ホストに Visual Studio 2022 C++ ランタイムライブラリをインストールすることをお勧めします。

詳しくは、『NetBackup インストールガイド』または『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

## 廃止予定のクラウドリカバリサーバーを伴うイメージ共有を設定するスクリプト

ims\_system\_config.py スクリプトは非推奨です。このスクリプトは、NetBackup イメージ共有サーバーを設定するために使用されます。(このサーバーは、CRS (クラウドリカバリサーバー) とも呼ばれます。)

NetBackup 10.4 以降、新しいクラウド機能と統合するには、MSDP クラウド API を使用する必要があります。

ims\_system\_config.py スクリプトは NetBackup 10.4 でも引き続き使用できますが、新しいクラウド機能はありません。このスクリプトは、将来のリリースで削除される予定です。

## AWS クラウド環境で仮想マシンを作成するために使用される AMI

Amazon マシンイメージ (AMI) は、リストア操作時にアマゾンウェブサービス (AWS) のクラウド環境に仮想マシン (Amazon Elastic Compute Cloud または EC2 インスタンス) を作成するために使用されます。

- NetBackup Snapshot Manager バージョン 10.4 以降では、AWS 仮想マシンの保護とリカバリについて、「保護されている AWS 仮想マシンの作成に使用される AMI ID がバックアップ中に他の情報とともに保存される」という変更が適用されます。VM のリストア時に、バックアップ中に記録された AMI はデフォルト入力として再利用され、ユーザーはデフォルト値を有効で互換性のある AMI ID に置き換えることができます。
- 10.4 より前のバージョンの NetBackup Snapshot Manager で作成されたスナップショットまたはバックアップの場合、ユーザーはリストアされる VM と互換性がある有効な AMI ID を指定する必要があります (この AMI 情報が記録されていないため)。

---

**メモ:** AMI パラメータの入力は、他のクラウドプロバイダでは必要ありません。そのため、これはリカバリ前およびクラウド NetBackup API のリカバリのためのオプションの属性です。

---

## アップグレードされたコンテナ化サービス

NetBackup 10.4 では、Cloud Scale 配備について、デフォルトで PostgreSQL をコンテナとして配備するためのサポートが導入されています。

## クラウド作業負荷のための Oracle Cloud Infrastructure のサポート

NetBackup では、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) 内にある Linux 上で実行されている仮想マシンと Oracle アプリケーションをバックアップおよびリストアする機能が提供されるようになりました。このリリースでサポートされる機能は次のとおりです。

- Oracle Enterprise Linux (OEL) の OCI での NetBackup Snapshot Manager の VM ベース配備。
- OCI で資産を検出し、保護タスクを自動化するための専用の NetBackup Snapshot Manager プラグイン。プラグインは、API キーおよび IAM ベースのソースアカウントと互換性があります。
- Linux で実行されている VM と Oracle アプリケーションのスナップショットを取得し、その後、取得したスナップショットからリストアできます。
- NetBackup は、スナップショットからのバックアップと VM のバックアップコピーからのリストアを提供します。
- OCI VM に対するクラウドインテリジェントポリシーと RBAC のサポート。
- アプリケーションの整合スナップショットを作成するには、Linux flexsnap エージェントを使用します。

詳しくは、『NetBackup Web UI クラウド管理者ガイド』と『NetBackup Snapshot Manager for Cloud インストールおよびアップグレードガイド』を参照してください。

## VMware vSAN Express Storage Architecture (ESA) のサポート

VMware vSAN Express Storage Architecture (ESA) は NetBackup 10.4 以降でサポートされます。前の NetBackup バージョンの 10.3 および 10.2.0.1 では、EEB を Veritas サポートから取得できます。

VMware vSAN Express Storage Architecture (ESA) は、まったく新しいレベルの効率性、拡張性、パフォーマンスでデータを処理して格納するように設計された、vSAN のオプションの代替アーキテクチャです。このオプションのアーキテクチャは、最新ハードウェアのフル機能を活用するように最適化されており、vSAN 8 で導入されました。

vSAN ESA はクラスタの作成時に選択できます。vSAN の ESA は、vSAN の以前の全エディションに搭載されていた OSA (Original Storage Architecture) と最新バージョンのオプションアーキテクチャに代わるものです。vSAN ESA について詳しくは、VMware の次の記事を参照してください。

<https://core.vmware.com/resource/vsan-frequently-asked-questions-faq>

## NetBackup Web UI での VMware ポリシーを使用した vApp の参照機能

VMware ポリシーの場合、NetBackup Web UI はポリシーにクライアントを追加するときに vApp を参照する機能を追加します。

## NetBackup Web UI での NetBackup for VMware の新機能

このリリースでは次の機能を利用できます。

- ユーザーは、選択した VM から環境内の他の VM に RBAC の役割の権限を適用できます。この処理を実行するには、VM に対する表示と管理アクセスの権限がユーザーに付与されている必要があります。
- [リストアジョブへの制限の適用 (Apply limits to restore jobs)] チェックボックス

## XFS フォーマット済みボリュームと LVM2 シンプルボリュームのサポート

NetBackup は、VMware Replication Director と Integrated Snapshot Manager for VMware 向けに、XFS フォーマット済みボリュームとパーティション上のファイルのインデックス付けをサポートします。

また、VMware の LVM2 シンプルボリュームのサポートが追加されました。

---

**メモ:** VMware ポリシー用の LVM2 シンボリューム、VMware Replication Director、および Integrated Snapshot Manager for VMware でのファイルのインデックス付けについては、Windows バックアップホストはサポートされません。

---

詳しくは、『NetBackup for VMware 管理者ガイド』を参照してください。

## NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能および変更点

このリリースでは、以下の機能が利用可能で、更新が加えられています。

- 読み取り不可能なセカンダリレプリカのバックアップに関する追加サポート。プライマリのポート番号を NetBackup に指定するには、追加の構成が必要です。  
hostProperties API エンドポイントを使用してこの設定を実行する方法について詳



しくは、『[NetBackup Web UI Microsoft SQL Server 管理者ガイド](#)』を参照してください。または、MSSQL\_CONFIG\_LIST オプションについては、『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』を参照してください。

- NetBackup for SQL Server のジョブ操作での RBAC の追加サポート。SQL Server 資産に対する権限をユーザーに付与して、SQL Server の個々のジョブを表示できるようになります。ジョブを再起動およびキャンセルする機能は、親ジョブで利用可能です。たとえば、可用性グループやデータベースインスタンスに対する場合です。
- NetBackup 10.4 に更新された SQL Server クライアントに対する Microsoft ODBC ドライバリリース 18 での暗号化接続の使用のサポート (暗号化は旧バージョンのクライアントではサポートされません)。次のデフォルト設定が適用されます。
  - NetBackup による ODBC 接続の暗号化。
    - ターゲット SQL Server インスタンスの証明書を信頼。
    - 利用可能な最も古いドライバを使用するように ODBC ドライバを構成。
- VMware ポリシーまたは保護計画で SQL Server の完全バックアップ (コピーのみのバックアップではない) をサポートする [T-SQL スナップショットを有効化する (Enable T-SQL snapshots)] オプションを追加。このバックアップは、SQL Server の増分バックアップとトランザクションログバックアップの基礎とすることができます。これにより、SQL Server ポリシーで完全バックアップを個別に行う必要がなくなります。
- NetBackup MS SQL Client からの再開オプション [作業を保存し、失敗した時点からやりなおす (Save work and restart at the point of failure)] の削除。バッチファイルの MAXRESTARTSETS キーワードは有効ではなくなりました。

## NetBackup for Oracle の新機能および変更点

このリリースでは次の変更点と機能を利用できます。

- 役割ベースのアクセス制御 (RBAC) は、すべての種類の Oracle 資産に適用できます。たとえば、Web UI でデータベースをクリックします。次に、[アクセス権 (Permissions)] タブで、データベースへのアクセス権を付与する RBAC の役割を選択します。
- NetBackup Web UI には、次の変更点と追加が加えられています。
  - RAC 以外のデータベースと RAC データベースは、[データベース (Databases)] タブで管理されます。[作業負荷 (Workloads)]、[Oracle] ページの [インスタンス (Instances)] タブは削除されました。インスタンスは、データベース名をクリックし、[インスタンス (Instances)] タブをクリックすることで管理されるようになりました。
  - RMAN カタログは [RMAN カタログ (RMAN catalogs)] タブで管理されます。RMAN カタログの登録は、[クレデンシャルの管理 (Credential management)]

で保存したクレデンシアルを使用して行えます。[データベース (Databases)] タブでは、Oracle データベースと関連付ける RMAN カタログを選択できます。

- Data Guard は[RMAN カタログ (RMAN catalogs)]タブで管理されます。
- 新しいコマンド `nboracmd` は、コマンドラインから Oracle 資産、クレデンシアル、Oracle ジョブを管理する機能を提供します。コマンド `nboracmd -add_dba` で構成された委任権限は RBAC に変換されないことに注意してください。管理者は、必要な RBAC の役割を Oracle 管理者に個別に適用する必要があります。

以下の項目は NetBackup 10.4 リリースで廃止されました。

- NetBackup 管理コンソールの[アプリケーション (Applications)]、[Oracle]ノードは削除されました。Oracle 資産は NetBackup Web UI から管理できます。
- Oracle インテリジェントポリシー (OIP) は NetBackup 管理コンソールから削除されました。OIP ポリシーは NetBackup Web UI で管理できます。
- インスタンスグループは、NetBackup 管理コンソール、NetBackup Web UI、およびコマンドラインオプションから削除されました。インスタンスグループの後継は CMS (Credential Management System) です。インスタンスグループを含む OIP ポリシーは、アップグレード中に更新されます。以前のポリシーに含まれるデータベースを使用して、新しいポリシーが作成されます。その後、新しいクレデンシアルが作成され、新しいポリシーのデータベースに適用されます。
- コマンド `nboracmd` は廃止されました。  
インスタンスグループとクレデンシアルを構成するためのコマンドラインオプションは適用できなくなり、新しいコマンド `nboracmd` では利用できません。CMS がインスタンスグループの後継となり、クレデンシアルは CMS で管理されるようになりました。

## マルウェアスキャンのための Kubernetes 作業負荷の種類をサポート

NetBackup 10.4 では、マルウェアスキャンのための Kubernetes 作業負荷の種類がサポートされるようになりました。

## プライマリサーバーとメディアサーバーに対するパッチ適用メカニズム

NetBackup 10.4 は、プライマリ、メディア、および PostgreSQL コンテナのコンテナ配備にパッチを適用する機能を提供します。

パッチ適用の導入により、ユーザーは Kubernetes のネイティブな方法でイメージにパッチを適用することができます。これは、環境の `serviceImageTag` フィールドを使用して、各コンテナのイメージタグを指定することで行います。

## Dynamic NAS (D-NAS) の新機能

NetBackup 10.4 には、D-NAS (Dynamic NAS) 用に次の新機能が含まれています。

- ボリュームのマルチホストバックアップ
- Cloud Volume ONTAP AWS のサポート
- Cloud Volume ONTAP Azure のサポート
- AWS FSx for NetApp ONTAP のサポート

詳しくは、『NetBackup NAS 管理者ガイド』および『NetBackup Snapshot Manager for Data Center 管理者ガイド』を参照してください。

# 操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 10.4 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Manager \(以前の NetBackup CloudPoint\)](#)
- [NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup NAS の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)

## NetBackup 10.4 の操作上の注意事項について

の操作上の注意事項は、のマニュアルセットまたはベリタスのサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性があるのさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。NetBackupNetBackupNetBackupVeritas操作上の注意事項は、NetBackupの各バージョンに対応する形で『NetBackupリリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』ま

たはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。NetBackupVeritas

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

## NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 10.4 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### Windows で NetBackup 10.4 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す

root 以外または管理者以外で起動したプロセスのログについて、レガシーログフォルダ構造が変更されました。新しいフォルダ構造は、プロセスログディレクトリ名の下に作成されます。詳しくは、『[NetBackup ログリファレンスガイド](#)』のレガシーログのファイル名形式に関するセクションを参照してください。

Windows の場合、NetBackup 10.4 へのアップグレードが失敗してロールバックが発生した場合は、次のコマンドを実行して、以前のバージョンの NetBackup での作業を続行します。

```
mklogdir.bat -fixFolderPerm
```

詳しくは、『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』で mklogdir コマンドの説明を参照してください。

### ネイティブインストールの要件

NetBackup 8.2 で初期インストールが変更され、現在は応答ファイルが必要です。この変更は、ネイティブパッケージを使用して VM テンプレートを作成する、または製品を構成せずに NetBackup パッケージをインストールする必要があるユーザーに悪影響を及ぼす場合があります。Linux では、以前の動作を実現する方法の 1 つとして、RPM パッケージマネージャの `-noscripts` オプションを使用できます。VRTSnbpcck パッケージのインストール時にこのオプションを指定すると、構成の手順を回避できます。このオプションは、その他のパッケージをインストールする場合に指定する必要はありません。この場合でも応答ファイルは存在する必要がありますが、指定する必要がある値は、マシンのロール (クライアントまたはメディアサーバーのいずれか) のみです。次に例を示します。

```
echo "MACHINE_ROLE=CLIENT" > /tmp/NBInstallAnswer.conf  
rpm -U --noscripts VRTSnbpc.krpm  
rpm -U VRTSnbpc.krpm VRTSnbclt.krpm VRTSnbdea.krpm
```

## NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠するホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 ( \_ ) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.000125019](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019)

これらの規格は、すべての NetBackup ホストを含む、すべての計算ホストに適用する必要があります。レガシーの環境と機能に対応するため、2010 年より前に実装された NetBackup 機能では、一部の準拠しない文字が引き続き許可されます。ただし、これより新しい機能や最近統合されたサードパーティコンポーネントは、業界規格に準拠しないホスト名についてテストされておらず、このようなホスト名との互換性はない可能性があります。

状況によっては、規格に準拠するネットワークホスト名のエイリアスでネームサービスを構成し、NetBackup を構成するときにエイリアスを使用できる場合があります。ただし、すべての機能との互換性が確実なのは、規格に準拠するホスト名を使用した場合です。

## HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett-Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall や swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

NetBackup はグローバルビューへのインストールのみをサポートします。HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが失敗します。

# NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 10.4 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## データベースへのアップデートコマンド

### `nbdb_admin -update_user_list`

`nbdb_admin` コマンドには新しいオプション `update_user_list` が含まれています。このオプションは、`pgpoolnccr` の `userlist.txt` ファイルのアカウントとパスワードの情報が NetBackup データベースと同期されていない場合に使用します。接続の問題が引き続き表示される場合は、NetBackup サービスを再起動します。

## 一部の作業負荷環境におけるアップグレード前のジョブデータベースのサイズの削減

NetBackup 9.0 以前から NetBackup 9.1 以降へのアップグレード後に、資産レベルでのアクセス制御を可能にするため、特定の作業負荷の既存のジョブに資産の名前空間が割り当てられます。この処理には時間がかかる場合があります。アップグレードの前にジョブデータベースのサイズを減らす必要があります。この処理により、関連付けを実行するために必要な処理の量が最小化され、Web サービスのパフォーマンスに与える影響が最小限に抑えられます。非常に大規模なジョブデータベースでは、ヒープ領域の高使用率に関連したアラートが表示される場合があります。

影響を受ける作業負荷には、クラウド、Nutanix AHV、RHV、VMware が含まれます。

詳しくは、次の記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100049808>

## Replication Director を使用するポリシーがエラーコード 4224 で失敗する

NetBackup Web UI で [Replication Director を使用 (Use Replication Director)] オプションおよび [スナップショットバックアップを実行する (Perform snapshot backups)] オプションが選択された既存のポリシーを変更しようとする、次のエラーが表示されます。

Error code 4224: Host. STS Internal Error

BPFIS ログに次のメッセージが表示されます。

```
15:16:13.416 [35337] <2> onlfi_vfms_logf: INF - snapshot services:
ostfi:2023-09-26 15:16:13.416029 <Thread id - 1> Failed to wait for

operation result, Error code [2060017] and message [system call
failed]
15:16:13.417 [35337] <2> onlfi_vfms_logf: INF - snapshot services:
ostfi:2023-09-26 15:16:13.417125 <Thread id - 1> OST Library call
failed with message (STS API waitForAsyncCall failed with error
code : 2060017)
```

回避方法:

次のいずれかの操作を実行します。

- エラーが表示された[ポリシーの検証 (Policy validation)]ダイアログボックスで、[エラーを無視して保存 (Ignore errors and save)]をクリックします。NetBackup 管理コンソール (Java UI) を開き、ポリシーを編集して保存します。
- エラーが表示された[ポリシーの検証 (Policy validation)]ダイアログボックスで、[ポリシーを編集 (Edit policy)]をクリックします。ポリシーを保存するには、[保存 (Save)]をクリックします。トポロジー検証オプションが表示された[ポリシーの検証 (Policy validation)]ダイアログボックスで、トポロジー検証オプションとして、[完了 (Complete)]ではなく[なし (None)]または[基本 (Basic)]を選択して保存します。

## NetBackup マルウェアユーティリティから応答を取得できない

この問題は、RHEL 8.x および NFS バージョン 4.x のスキャンホストに該当します。

2 億以上のファイルの大規模なバックアップをスキャンする場合、失敗したジョブについて NetBackup Web UI に次のエラーが表示されます。

```
Failed to get response from NetBackup malware utility.
```

スキャンホストでのスキャンの進行中に、NFS マウントポイントにスキャンホストからアクセスできません。スキャンジョブは進行中のままになり、2 日後にタイムアウトします。ストレージサーバーの NFS エクスポートにアクセスできます。

回避方法:

スキャンホストの /etc/nfsmount.conf ファイルに次を構成して、NFS を介したスキャンホストでの IA マウントに NFS バージョン 3 を使用していることを確認します。

```
# grep Defaultvers /etc/nfsmount.conf Defaultvers=3
```



## NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 10.4 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースについて詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』または『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.51 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

### [カタログ (Catalog)] 領域で列を追加または削除する際に NetBackup Web UI で遅延が発生する

Web UI の [カタログ (Catalog)] 領域では、イメージのテーブルに対して列の追加や削除を行えます。表示されるイメージが多いほど、列を追加または削除する際に、インターフェースの更新に時間がかかります。この問題は、今後のリリースで修正される予定です。

### NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

### Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの間

題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

[http://bugs.sun.com/bugdatabase/view\\_bug.do?bug\\_id=6901233](http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233)

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

## NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 10.4 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### PIT リストア後 [ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)] というエラーが表示される

指定した時点 (PIT) のリストア操作 (完全ファイルシステムリストアまたは BMR リストアのいずれかが含まれる場合がある) が実行された後、エラーメッセージ [ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)] が表示されます。

このシナリオでは、root または管理者アカウントとして SERVICE\_USER が構成されている場合に完全バックアップが実行されます。このアカウントは、root または管理者の所有権を持つ NetBackup のインストール済みバイナリのバックアップを取得します。リストアの前に、root または管理者以外で SERVICE\_USER が構成され、サービスユーザーが bp.conf の一部としてバックアップされる増分バックアップが取得されます。増分バックアップによる PIT リストア操作では、SERVICE\_USER エントリがリストアされます。ただし、バイナリは root アカウントの所有権でリストアされます。

回避方法:

サービスユーザーを変更した後、ファイルシステムの MS-Windows¥Standard Policy が BMR ポリシー構成かにかかわらず、完全バックアップを作成する必要があります。

### Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動的に起動しないことがある

Linux クライアントで BMR (Bare Metal Restore) のリストア操作を実行した後、NetBackup サービスが自動的に起動しないことがあります。

BMR リストア操作後に NetBackup サービスがしばらく実行され、BMR のリストア後のスクリプトが正常に完了する場合があります。しかし、その後で NetBackup サービスが停止することがあります。

この問題は、サービスユーザーが、NetBackup Linux クライアントで定義されている root ユーザーと異なる場合にのみ発生します。

回避方法:

Linux クライアントで NetBackup サービスを手動で起動します。サービスを起動するには、次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all
```

## NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項

この項では、バージョン 10.4 の NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### NetBackup バージョン 10.4 の AIR (自動イメージレプリケーション) では NetBackup 10.2 以降が必要

NetBackup バージョン 10.4 があるコンピュータから、10.2 より前のバージョンの NetBackup があるターゲットコンピュータに対し、AIR (自動イメージレプリケーション) を実行することはできません。

回避方法:

なし。ターゲットコンピュータを NetBackup バージョン 10.2 以降にアップグレードします。

### Azure で、古いポリシーが新しいバックアップホストで更新されるとバックアップが失敗する

Azure で、10.3 より前の NetBackup バージョンで作成されたポリシーを新しいバックアップホストで更新すると、バックアップは失敗します。

バージョン 10.3 の修正された問い合わせ形式がこの問題の原因です。

回避方法:

バケット内のすべての既存の問い合わせを新しい形式に更新します。

### レプリケートされたバックアップを古い NetBackup バージョンにリストアできない

NetBackup 10.3 以降で作成されたバックアップイメージを古い NetBackup バージョンにレプリケートする場合、古いバージョンの NetBackup を使用してデフォルトの保持が有効になっているバケットまたはコンテナをリストアできません。

回避方法:

1. NetBackup バージョン 10.3 以降でリストアします。
2. イメージを NetBackup バージョン 10.3 以降にレプリケートします。

## Ceph 上の既存のクラウドオブジェクトストアアカウントの認証方法の変更が失敗することがある

Ceph 上の既存のクラウドオブジェクトストアアカウントの認証方法の変更が、次のメッセージで失敗することがあります。

```
Credential validation failed. Provide the correct Cloud account name and credentials.
```

アクセスキー認証を使用する Ceph のクラウドオブジェクトストアアカウントでは、認証方法をセキュリティトークンサービスベースの認証に変更すると、このエラーが表示されます。この更新後、クレデンシャルの検証、検出、バックアップが失敗する場合があります。

回避方法:

次のいずれかの処理を実行します。

- 新しい名前で新しいアカウントを作成します。Ceph でセキュリティトークンサービスベースの **Assume** ロールアクセスを使用するように構成します。
- 古いアカウントを更新するには、既存のアカウントの詳細を書き留め、古いアカウントを削除します。次に、同じ名前の新しいアカウントを作成し、セキュリティトークンサービスベースのアクセス方法を使用します。

---

**メモ:** この問題は Ceph クラウドプロバイダにのみ影響します。Amazon や AWS GovCloud などの他のプロバイダの更新を、セキュリティトークンサービスベースのアクセス方法を使用して行うことは可能です。

---

## Red Hat Ceph では Assume ロールのクレデンシャル形式がサポートされない

Red Hat Ceph クラウドプロバイダは、Assume ロールのクレデンシャル形式をサポートしません。ただし、このクレデンシャル形式は NetBackup Web UI で Ceph のオプションとして利用可能です。

# NetBackup Snapshot Manager (以前の NetBackup CloudPoint)

## AWS マーケットプレース AMI から作成されたインスタンスでインデックス付けがサポートされない

AWS マーケットプレース AMI から作成されたインスタンスのインデックス付け処理は、次のエラーで失敗します。

```
Failed to attach new volume: Cannot attach volume <vol-xxx>  
with Marketplace codes as the instance <i-xxx>  
is not in the 'stopped' state.
```

## ストレージアレイの証明書の検証

NetBackup 10.3.0.1 以降には、NBSM (NetBackup Snapshot Manager) とストレージアレイ間で行われる通信について、ストレージアレイの証明書を検証するオプションが用意されています。検証を成功させるには、ストレージアレイの root 証明書を NetBackup Snapshot Manager のトラストストアに保持する必要があります。

ストレージアレイ証明書を手動でダウンロードし、NBSM トラストストアに追加する必要があります。証明書がトラストストアに追加された後、プラグインの構成またはプラグインの更新操作中に [証明書の詳細 (Verify Certificate)] オプションを選択して、証明書の検証を有効にします。

詳しくは、次の技術情報の記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100062212>

## NetBackup データベースとアプリケーションエージェントの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなデータベースおよびアプリケーション技術を保護する方法をいくつか提供しています。このトピックでは、NetBackup 10.4 によるデータベース技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## NetBackup for Microsoft SQL Server の操作上の注意事項

NetBackup for SQL Server は、NetBackup for Windows の機能を拡張したもので、SQL Server データベースのバックアップおよびリストアを行います。これらの機能は、Linux 版または Windows 版の NetBackup プライマリサーバーを使用する Windows ク

クライアント用に提供されます。このトピックでは、NetBackup 10.4 の NetBackup for Microsoft SQL Server に関わる操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## T-SQL スナップショットを使用する VMware バックアップがエラーコード 114 で失敗する

T-SQL スナップショットを使用する VMware バックアップは、MS-SQL バックアップと並列して実行すると失敗します。

回避方法:

バックアップが正常に実行されるようにするには、ポリシースケジュールが重複しないように構成します。

## 読み取り不可能なセカンダリで SQL Server ファイルグループのバックアップがサポートされない

SQL Server 2022 では、読み取り不可能なセカンダリでのファイルグループのバックアップに問題があります。Microsoft 社の制限事項のため、現時点ではサポートされていません。

# NetBackup NAS の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Manager および NDMP V4 スナップショット拡張機能を使用して、クライアントデータのスナップショットを NAS ホスト上に作成できます。NAS スナップショットは、ある特定の時点のディスクイメージです。ディスク上のスナップショットは、任意の期間保持できます。NetBackup のインスタントリカバリ機能を使用すると、ディスクから効率的にデータをリストアできます。多くの場合、NetBackup では、NAS-Data-Protection ポリシーと NDMP ポリシーを使用して、NAS のスナップショットベースのデータ保護を実行できます。このトピックでは、NetBackup 10.4 の NetBackup NAS に関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

## RD ストレージユニットがレプリケーションターゲットとして一覧表示されない

NetBackup Web UI から SLP (ストレージライフサイクルポリシー) を構成するときに、RD (Replication Director) ストレージユニットが [宛先ストレージの属性 (Destination storage attributes)] の [レプリケーションターゲット (Replication target)] ドロップダウンに表示されません。この状況は、同じプライマリサーバーに ISM と RD の両方のレプリケーションターゲットを構成した場合に発生します。

回避方法:

NetBackup 管理コンソール (Java UI) またはコマンドラインインターフェース (CLI) を使用して SLP を構成します。

## NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項

NetBackup for OpenStack はオプションの NetBackup アプリケーションです。このトピックでは、NetBackup 10.4 の NetBackup for OpenStack に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### NetBackup OpenStack 10.4 からの NetBackup for OpenStack Appliance の再初期化機能の削除

再初期化機能は、NetBackup for OpenStack Appliance を再初期化して、ポリシー関連のすべての情報を NetBackup for OpenStack データベースから削除します。この機能は NetBackup for OpenStack 10.4 から削除されました。

### バックアップからのボリュームの除外が NetBackup for OpenStack 10.4 ではサポートされない

NetBackup for OpenStack 10.4 のバックアップからボリュームを除外することはできません。

### NetBackup for OpenStack 10.4 は古いバージョンのポリシーのみをインポートする

NetBackup for OpenStack 10.4 は、古いバージョンのポリシーのみを移行またはインポートします。スナップショットはインポートしません。

ポリシーをインポートした後、スナップショットからインスタンスをリカバリすることはできません。ただし、ポリシーのインポート後にスナップショットまたはバックアップを作成した場合は、スナップショットまたはバックアップコピーからインスタンスをリカバリできます。

## haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする

haproxy 接続の NBOSDMAPI サービスは、使用率の高い環境で応答時間に時間がかかることが原因でタイムアウトする場合があります。

ほとんどの環境では、デフォルトの haproxy 構成で正常に動作します。NBOSDMAPI でタイムアウトの問題が発生した場合は、haproxy 構成をカスタマイズしてください。詳しくは、次のテクニカルノートを参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100052551](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100052551)

## 増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない

増分バックアップ用インスタンスに新たに追加されたディスクは正常にバックアップされませんが、これらのディスクはマウントできません。

## リカバリポイントがある保護を削除すると、エラーメッセージとともに成功メッセージが表示される

リカバリポイントがある保護を削除すると、次の成功メッセージとエラーメッセージが表示されます。ただし本来は、保護が削除されず、エラーメッセージのみが表示されるべきです。

- This protection contains the recovery points that may have unexpired copies.
- Success: Deleted: <protection name>

## リストアされた VM に空のメタデータ config\_drive が接続される

リストアのたびに、メタデータ config\_drive が空白値で設定されます。

回避方法:

メタデータ config\_drive を削除するか、必要な値を設定します。

## SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない

SSL 対応 OpenStack の場合、TLS CA 証明書バンドルの欠落エラーでバックアップジョブとリストアジョブが失敗します。

回避方法:

提供された OpenStack CA を使用して NetBackup Appliance を構成します。

または、OpenStack CA を /etc/nbosjm/ca-chain.pem に含めます。



## OpenStack プロジェクトが削除されると NetBackup for OpenStack 10.4 でポリシーのインポートが機能しない

NetBackup for OpenStack にポリシーをインポートするときに、既存のポリシーを含む OpenStack プロジェクトが削除されると、`policy-reassign` コマンドの使用を求めるメッセージが表示されます。`policy-reassign` コマンドは NetBackup for OpenStack でサポートされないため、そのようなポリシーはインポートできません。

## NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 10.4 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:  
データファイルパス、表領域名、TNS パス
- DB2:  
データファイルパス、表領域名
- SAP:  
英語版 SAP は、ローカライズされた OS で動作します。(ローカライズされた SAP フィールドは特にありません。)
- Exchange:  
メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- SharePoint:  
サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- Lotus Notes:  
電子メールデータ (.nsf ファイル)
- Enterprise Vault (EV) エージェント:  
ボルトストア、パーティション、データ
- VMware:  
ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

## 特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (プライマリサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント、インスタンスグループ)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名
- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名
- ストレージライフサイクルポリシー (SLP) 名

# NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)

## Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、Veritas エンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト  
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor  
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。

- カスタムレポート  
このツールを使うと、システムと Veritas エンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定  
このツールを使用すると、今後 Veritas が新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後 Veritas が置き換えることなく廃止する項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、サードパーティ製品の統合、Veritas 製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

# NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 10.4 のバイナリサイズ](#)

## NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストール指示について詳しくは、『NetBackup インストールガイド』および『NetBackup アップグレードガイド』に記載されています。

p.29 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- NetBackup 10.4 にアップグレードする前に、NetBackup リレーショナルデータベースの 2 倍のサイズの空きディスク領域があることを確認します。つまり、プライマリサーバーのデフォルトインストールに対して、/usr/opensv/db/data (UNIX) または `<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data` (Windows) のディレクトリを含むファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空

き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

---

**メモ:** この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

---

- プライマリサーバーとメディアサーバーでは、NetBackup を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を 8000 にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響の詳細については、Veritas のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。  
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- NetBackup のプライマリサーバーとメディアサーバーは、起動時および 24 時間ごとにサーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは vmd サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- Veritas は、メディアサーバーのアップグレードの実行中は、プライマリサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは gzip を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには gunzip と gzip が必要なので、NetBackup をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。HP-UX を除くすべての UNIX プラットフォームでは、パイナリは /bin または /usr/bin に存在し、このディレクトリが root ユーザーの PATH 変数に含まれていると想定されています。HP-UX システムでは、gzip コマンドおよび gunzip コマンドは /usr/contrib/bin に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、PATH 変数にこのディレクトリが追加されます。UNIX でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

## NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup のすべてのバージョンの互換性リストに一覧表示されているオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など) でサポートされます。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リスト

で特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Veritas は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

NetBackup 10.4 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必須 OS パッチ情報は、[Veritas SORT \(Services and Operational Readiness Tools\) Web サイト](#)および [NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)で確認できます。互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。

p.51 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.43 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

## NetBackup 10.4 のバイナリサイズ

表 B-1 に、サポートされているさまざまなオペレーティングシステムの NetBackup 10.4 プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントソフトウェアに対する概算のバイナリサイズを示します。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。表にリストされているサイズの場合、1 MB は 1024 KB に相当します。

---

**メモ:** NetBackup 8.3 では、Java GUI および JRE パッケージは、ほとんどのクライアントとメディアサーバーで省略可能です。パッケージサイズは、Java GUI と JRE を使用して計算されています。

---

**メモ:** 表には、サポートされているオペレーティングシステムのみが表示されています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、[Services and Operations Readiness Tools \(SORT\) Web サイト](#)または [NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)を参照してください。

---

表 B-1 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER	1789 MB	サポート終了	
Alma Linux		2029 MB		
Amazon Linux		2029 MB		

OS	CPU アーキテクチャ	64 ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
BC-Linux		2029 MB		
Canonical Ubuntu	x86-64	2029 MB		
CentOS	x86-64	2029 MB	8992 MB	
Debian GNU/Linux	x86-64	2029 MB		
Kylin Linux Advanced Server 10.0		2029 MB		
NeoKylin Linux Advanced Server		2029 MB		
Oracle Linux	x86-64	2029 MB	8992 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	POWER	1437 MB		
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64	1989 MB	8730 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture	1086 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Rocky Linux クライアント		2029 MB		
Solaris	SPARC	946 MB	サポート終了	
Solaris	x86-64	905 MB	サポート終了	
SUSE Linux Enterprise Server	POWER	443 MB		
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64	1642 MB	7083 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture	1102 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64	713 MB	5087 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

次の領域の要件は Windows に NetBackup をインストールする場合にも適用される場合があります。

- Windows システム上のデフォルトではない場所に NetBackup をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、表に表示されている合計バイナリサイズの 40～50% になります。
- NetBackup サーバーを Windows クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要



な領域は、表に表示されているバイナリサイズに加えて必要なものです。必要な追加領域は合計バイナリサイズの 15～20% です。

# NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

## NetBackup のバージョン間の互換性について

プライマリサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる NetBackup を実行できます。この旧バージョンのサポートによって、NetBackup サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

Veritas ではサーバーとクライアントの特定の組み合わせのみがサポートされています。バージョンが混在する環境では、特定のコンピュータが最新のバージョンである必要があります。具体的には、バージョンの順序を NetBackup Snapshot Manager コンピュータ、プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントのようにします。たとえば、10.2 NetBackup Snapshot Manager > 10.0 プライマリサーバー > 9.0 メディアサーバー > 8.3.0.1 クライアントというシナリオがサポートされます。

NetBackup バージョンはすべて 4 桁の長さです。NetBackup 10.0 リリースは 10.0.0.0 リリースです。同様に、NetBackup 9.1 リリースは NetBackup 9.1.0.0 リリースです。サポート目的では、4 番目の数字は無視されます。9.1 プライマリサーバーは 9.1.0.1 メディアサーバーをサポートします。サポートされない例は、9.1 プライマリサーバーと 10.0 メディアサーバーの組み合わせです。

NetBackup カタログはプライマリサーバー上に存在します。したがって、プライマリサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディ

アサーバーが含まれている場合は、プライマリサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。

NetBackup バージョン間の互換性について詳しくは、[Veritas SORT Web サイト](#)を参照してください。

Veritas は [EOSL](#) 情報をオンラインで確認することをお勧めします。

## NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.43 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

### NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようにさまざまな互換性リストを提供しています。

[NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)

---

**メモ:** 相互に互換性がある NetBackup のバージョンについて詳しくは、ソフトウェア互換性リスト (SCL)、SCL 内の [NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)] の順に選択します。

---

## NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

Veritas は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。Veritas社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン

#### ■ 新しい NetBackup の機能

Veritas が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

Veritas社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。Veritas社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。Veritas 可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

## SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある[NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 ( Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

[https://sort.veritas.com/eosl/show\\_matrix](https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix)

p.43 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

## プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 10.4 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.10 の「NetBackup の新しい拡張と変更について」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

# 他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)

## NetBackup の関連マニュアルについて

Veritas は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。特に指定のないかぎり、NetBackup のマニュアルは「[NetBackup Documentation Landing Page](#)」から PDF 形式でダウンロードするか、HTML 形式で参照できます。

NetBackup が新たにリリースされるたびにすべてのマニュアルが公開されるわけではありません。マニュアルには、NetBackup 10.4 用が公開されていない他バージョンのドキュメントの参照が記載されている場合があります。このような場合は、参照可能な最新バージョンのマニュアルをご覧ください。

---

**メモ:** Veritas は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

---